

春季彼岸会

並

総永代経法要

兼・墓地納骨(物故者)追弔法要

日時

3月17日(月)午後1時30分

講題

「龍樹大士出於世」

法話

小松 崇 師 (15組泉勝寺住職)

講師からのメッセージ

宗祖親鸞聖人が著述された正信偈は、真宗門徒にとって最も身近なお聖教です。この正信偈の前文に「しかれば大聖の真言に帰し、大祖の解釈に関して、仏恩の深遠なるを信知して、正信念仏偈を作り」と、著述された理由を述べておられます。そこには、釈尊がお説きになった『仏説無量寿経』こそが真実の言葉であり、時代や環境、状況や個人差の相違はあっても、この本願念仏の教えを聞信し、伝えてこられた高僧方を讃仰される宗祖を見ることができます。

この高僧とは、インドの龍樹菩薩・天親菩薩・中国の曇鸞大師・道綽禅師・善導大師・日本の源信僧都そして師の法然上人で、本願念仏の大道を歩まれ、伝持された浄土の七高僧と仰がれた人たちです。

正信偈の結びに、「道俗時衆、共に同心に、ただこの高僧の説を信ずべし」と、私たちに説かれています。

今回は、龍樹菩薩の段を取り上げて、皆様と共に本願念仏の教えを学ばせていただきたいと存じます。